

都市環境デザイン会議 北陸ブロック総会

日時：2024年6月22日（土）13:30～14:30

会場：石川県政記念しいのき迎賓館

セミナールームB + オンライン開催

参加者：会場参加 31 名、オンライン参加 3 名 計 34 名

議 事：第 1 号議案 第 33 期 北陸ブロック活動報告及び収支報告承認の件

第 2 号議案 第 34 期 北陸ブロック活動計画及び収支計画承認の件

第 3 号議案 次期ブロック幹事承認の件

報告・協議事項：第 33 期 JUDI プロジェクト報告

理事会報告

委員会報告

会員について

- ・新規会員としては、田村尚之氏が入会され、計 58 名（特別会員 3 名含む）となりました。



ブロック幹事 野嶋慎二氏

<議事要旨>

- ・第 1 号議案 第 33 期活動報告・収支報告、第 2 号議案 第 34 期活動計画・収支計画は、無事承認されました。
- ・活動費は、正会員等の会費額と会員数による荷重配分方式により配分され、北陸ブロックは 30 万円となっています。
- ・なお、本総会において、定例総会、全国大会の参加費支援が承認されておりますので、参加を希望される方は事務局までご連絡ください。
- ・第 3 号議案 次期ブロック幹事は、野嶋慎二先生に代わり、小見直樹氏が承認されました。
- ・公募制プロジェクト「名水が育むまちづくり」について上坂達朗氏より、「新・兼六園周辺文化の森グランドデザイン」その 2 について埴正浩氏より活動報告がされました。
- ・理事の新田川貴之氏より、第 33 期総会、全国大会 in 熊本、理事会の活動報告のほか、第 34 期総会は 8/24・25 に関東において、全国大会は 9/6～8 に北海道・釧路において開催予定であると報告されました。
- ・広報委員会と研究発表委員会の報告が、それぞれされました。



議案を説明する事務局 埴正浩氏



次期ブロック幹事の 小見直樹氏

都市環境デザイン会議北陸 in 金沢 2024

日 時：2024 年 6 月 22 日（土）13:30～14:30

会 場：石川県政記念しいのき迎賓館

セミナールーム B + オンライン開催

参加者：会場参加 41 名、オンライン参加 23 名
計 64 名

プログラム：

◎現状報告

莊司 洋文氏（(株)キタック・JUDI 会員）

酒井 信次氏（大日本ダイヤコンサルタント(株)・JUDI 会員）

埴 正浩 氏（(株)日本海コンサルタント・JUDI 会員）

玉森 慶三氏（福井県文化振興財団・JUDI 会員）

◎パネルディスカッション

コーディネーター

鰐 隆弘 氏（金沢美術工芸大学教授・JUDI 会員）

パネリスト

莊司 洋文氏（(株)キタック・JUDI 会員）

酒井 信次氏（大日本ダイヤコンサルタント(株)・JUDI 会員）

埴 正浩 氏（(株)日本海コンサルタント・JUDI 会員）

玉森 慶三氏（福井県文化振興財団・JUDI 会員）

フォーラム「能登半島地震とまちづくり」は、石川県政記念しいのき迎賓館セミナールーム B にて開催されました。

まず現状報告として、令和 6 年 1 月 1 日に発災し甚大な被害をもたらした令和 6 年能登半島地震における北陸 4 県の現状報告を 4 名の JUDI メンバーから発表していただきました。

また、現状報告をしていただいた JUDI メンバーをパネリスト、鰐隆弘先生をコーディネーターとし、パネルディスカッションをしていただきました。

■ 現状報告(概要)

◆『能登半島地震 教訓は活かされるか』

莊司 洋文氏（(株)キタック・JUDI 会員）

新潟地震は、液状化が世界的に注目される契機となった地震。今回の地震では、新潟地震と同じ被災状況が繰り返されたことで、まちづくりに関わる立場からは顧みるところもあった。

まず、能登半島地震による新潟県内の被災状況は、人的被害では幸い死者や行方不明者はなく、住宅被害では新潟市が全体の 7 割を占めており、多くが液状化による。震度 5 からが液状化発生が目安といわれていて、新潟市内には震度 6 弱の部分もある。

新潟市での液状化発生箇所は、代表的な地区とし



新潟県内の現状報告をされる莊司洋文氏

て西区の寺尾と善九、江南区の天野の 3 つ。全国で報道されるほど被害が顕著なのが寺尾である。液状化しやすいマップを見ると、今回の地震では起きやすい場所で起きてしまったことがわかる。液状化の鍵は、砂の緩さと水位の高さ。砂丘の海側では地下水が海と繋がっていて、内陸側は地表に地下水がしみ出ているような状態だった。

新潟市は防災指針を策定しておらず、まちづくりの観点から考えると新潟地震最大の教訓だった液状化対策ができなかったのかという思いがある。

東日本大震災の影響もあってか逃げる人は多くみられたが、車での避難による渋滞が起こった。県内で津波が最も多く集中したのは上越市。上越市が沿岸部 44 の町内会にとったアンケートでは半数以上が訓練通りに活動できなかったと答えている。

今までの地震体験を年表にすると、5、6 年に 1 回は地震があり、20 年に 1 回はひどい被害になる。復旧を考えると、一生の 4 分の 1 から 3 分の 1 くらいは地震と付き合うような感覚。

能登半島地震のエピソードとしては知り合いが外に出たときに本震が来て電柱のステーワイヤーが落ちてきたと聞いた。電柱が倒れるよりも見えないものが落ちてくるというのはたちが悪い。

今までの地震を振り返ると、阪神淡路大震災や能登半島地震で火災が起きていてどうすることもできないのかと歯がゆさを感じている。新潟市の市街化区域は 129 km²あり、そのうち 5.6 km²が低未利用地。空き家率は 5% だそう。こういうところを防火の観点から捉え直すことが必要なのではないか。

◆『令和6年能登半島地震～富山県における被災状況（主に道路）～』

酒井 信次氏（大日本ダイヤコンサルタント(株)・JUDI会員）

富山県の被災状況としては、一番強いところで震度は5強。人的被害は死者、行方不明者はおらず、重傷、軽傷者が50名近く。住家被害では、全壊が250件近く、半壊が750件余りで、一部損壊を含めると2万件ほどの建物に影響が出たという状況。特に、富山県の中でも能登に近い氷見市や高岡市、射水市で被害が大きいという状況だった。



富山県内の現状報告をされる酒井信次氏

元旦に地震が起きて、富山河川国土事務所より連絡があり、2日から被災状況について調査を開始した。そこから1週間くらいは富山県内の現場を周り、翌週からは災害申請資料を作る作業と、詳細な調査にとりかかった。その後、富山県からも要請があり、現在は市町村単位でも相談を受けている。

国道8号では、3箇所で大きな被害が見られた。富山市内では地下道が水没し、8号と国道156号とが交差する場所では液状化によって歩道や地下道が被災、小矢部市の中でも液状化が見られた。富山市のアンダーボックスでの水没は、液状化の影響で亀裂が生じて地下水が噴出し、水が噴出し続け、水を抜くことができないために2m以上の水が溜まった。それだけ溜まった状態で突然水を抜くと8号本線が陥没する危険性があったため調査を行い、水を抜くまでに2ヶ月ほどかかり、復旧には3ヶ月以上かかるといわれている。

高岡市の歩道では液状化が起っており、マンホール周辺などのアスファルトがひび割れている状況。地下に構造物がある部分とない部分とで段差が生じており、小矢部市の交差点では液状化の影響で砂が浮いているような状況となっていた。

国道160号は県内で一番被害の大きい道路で、石川県側に近いところでは、民家前の側溝が壊れ、家屋の塀も倒れているものがあり、潰れて倒れた家が国道の方にはみ出し、車線規制がされていた。

能越自動車道は、新しく作った道路だということや能越自動車道自体の設計基準に準じていることから、他の国道に比べて被害が小さかった。

伏木港周辺は液状化がひどい状況で、歩道では20cmほどの段差ができているところやひび割れや砂が出ている場所もあった。

富山県内では2月初旬までに概ねの災害査定は終わり、追加の調査や詳細設計に入っているところで本復旧に向けての活動が続いている状況である。

◆『能登半島地震とまちづくり－石川県の現状報告－』
埴 正浩 氏（(株)日本海コンサルタント・JUDI会員）

1月1日16時10分にマグニチュード7.6、震度7の地震が来て16時22分には大津波警報もあり。1月3日の新聞では輪島朝市が燃えているところ、55名が亡くなったこと、津波のことが書かれている。被害の状況がどんどんひどくなり、3日目の避難者は3万3530人、770名以上の方が孤立していた。1週間で死者は128名に増えた。6月18日時点では、関連死を含めた死者が282名。熊本地震を超えて平成以降3番目の多さとなり、住家の被害は83000棟ほど。今でも1次避難されている方だけでなく、1.5次や2次避難されている方も多い。

輪島市黒島では重要文化財の角海家も倒壊。鹿磯漁港では4mほど隆起したといわれ、船は岸壁につけられない状況。輪島の中心部では1ヶ月経っても焦げ臭かった。珠洲市宝立の見附島は軍艦島ともいわれているが、地震の影響でやせ細ってしまった。液状化の被害もあり、マンホールか1.5mほど浮き上がってしまう状態で、電柱が根こそぎ倒れている。



石川県内の現状報告をされる埴正浩氏

国土交通省や各自治体、建設業者の方々に頑張っていただいて復旧が進み、断水は 11 万戸あったが、4 月には 4000 戸にまで減った。仮設住宅は 8 月中には 6000 戸ほどの完成を目指すことになっている。

復興プランでは、創造的復興の実現に向けた羅針盤として、9 年間をかけてリーディングプロジェクトを展開していこうとしている。

私の被災体験をお話したい。16 時 10 分に経験したことのない揺れがあり、外に出ると近所の人に津波がくると言われた。車で逃げようとしても通れる道がなく、やっと避難所の中学校に着くことができた。体育館が寒かったためにグラウンドで車中泊。携帯は使えず、トイレも大変だった。列になっていた公衆電話から会社に電話をすると、通れる道がありそうだとということで、様々なルートを通ろうと試したが、土砂崩れや倒木で通れなかった。避難所の人に案内してもらった道路も大渋滞で、3 日に 7～8 時間ほどかけてなんとか金沢の自宅に着いた。

今後の復旧・復興のまちづくりに向けて、もちろん創造的復興は行う必要はあるが、まずは追いついてない復旧を急ぐべき。これまでも人口減少や少子高齢化だったが、それが加速化していることを前提とした復興をすべき。生業がない人は戻れないので、それをどう戻すか、また新たな生業をどう作るのが課題。現地には国の方や学会、専門家やボランティアなどいろんな人が入っているが、地元の人にとって本当にためになるようなサポートをお願いしたい。JUDI 北陸のメンバーもそれぞれの立場で能登に関わっている。今後も情報交換しながら被災地に寄り添い、地元がより良い選択ができるようなサポートを続けたい。

◆『能登半島地震とまちづくり』

玉森 慶三氏（福井県文化振興財団・JUDI 会員）

福井県の被害の状況としては、最大震度は 5 強。人的被害は 6 名。住宅被害は 625 棟。半壊は 12 棟、一部損壊が 613 棟で、地震による被害はそれほどなかったが、あわら温泉を含め、旅館や市内のホテルへの宿泊のキャンセルは相当数あった。観光への被害は石川や富山と同じくらいあったかと思う。

福井県と石川県の県境には湖があり、その湖畔は砂地であるので、この地区の被害が最も大きかった。舗装の段差が見られたり、液状化が起きたりしている。福井市内でも、駅前の商業施設で屋根が落ち、あわら市の住宅地では道路が陥没していた。また、あわら市の公園は、北潟湖の近くだったこともあり液状化の被害があった。

当日は妻の実家にいて大きな揺れを感じたが、物が落ちたり、壁が壊れたりするようなことはなかった。テレビで地震速報をみていると、大津波注意報が大津波警報に変わり、「命を守る行動・直ちに避難するように」とけたたましくアナウンスされはじめた。港に近い場所だったので避難する必要があると思い、高台にある自宅まで避難することにした。行動したのが早くて渋滞には巻き込まれなかったが、高台にある三国成田山への初詣の車と避難所に避難する車で渋滞になっていたと聞いた。

また、公民館や小学校は正月ということで鍵がかかっており、小学校はトイレがなく、体育館にも暖房はなく寒かったそうだ。

今回発表予定だった辻さんから、まちづくりに関わってきた立場からのメッセージがある。

一つは、リスクの高いところに住まわせない指導をしたらどうかということ。また、2000 年の新耐震基準によって家が守られた。「生命」は守れても「生活」は守り切れないという話はよくわかる。

災害に強いまちづくりとしては、「生命」が最優先で、避難所の問題、道路のネットワーク、エネルギーについても書かれている。電気が大変な問題になるということがわかったので、臨時用の発電機や E V 車の活用、小水力・農業揚水発電等の電源の確保について提案されている。

そして「生活」よりも「生命」ということを大前提として、コミュニティの規模・あり方、代替性のあるシステム・ネットワークなど、能登から、これからのまちづくりをモデルとして提示していけたらということだ。

今回の地震では、能登が半島であることで地理的に障害があるのではないかとことがあった。ボランティアも入れないということで、半島の難しさということをつくづく感じた。



福井県内の現状報告をされる玉森慶三氏

■ パネルディスカッション



左から：鰐氏、莊司氏、酒井氏、埴氏、玉森氏

（鰐氏） 会場から情報提供の観点で、地域の連合町会長をされている上坂さんに当日の避難についてお聞きしたい。

（上坂氏） 地元で自治防災会の会長をしている。地震が起きた瞬間は自分の家のことが心配で、壊れているところがないか確認したすぐ後に、避難所開設のことが頭によぎった。町会長に町内の安否確認を頼んで歩いて避難所に向かった。建物の安全を確認するのを忘れながらも駆けつけてくれた地元の人とすぐに開錠した。幸いにも住んでいるエリアはそんなに被害が大きくなり、避難者はそんなに多くなかった。一人暮らしの高齢者の方は自分の家が不安なのと余震が心配だということで、多いときで30人くらい。泊まっていかれた方は20人くらいだった。町内の普段からのコミュニティがちゃんとしているかによって、避難のときの在り方は大きく変わるのだろうと感じた。私の町内会はいいいコミュニティで、役員も何人かいたことで安否確認ができたが、日ごろからの積み重ねが大事なのかなと思う。

（鰐氏） 今日のご提案の中で創造的復興という言葉があった。それについてご意見をいただきたい。石川県の場合、半島ということもあり復旧が遅いといわれている。道路や社会基盤の復旧についての見通しなどお話しいただきたい。

（埴氏） 道路の復旧については、7月末にのと里山海道がつながるという情報がある。それがつながると金沢と能登間の時間が少し短くなり、物資や人の応援が行きやすくなる。その一方で、建設コンサルタントなどの組織が各々で復旧の仕事をしている。道路災から河川災、橋梁や公園、農地などの災害がありどれだけあるかわからない状態で、次々新しい被害が出てくる。12月までに災害査定資料

を作るよう要求がある。仮に建設コンサルタントが測量設計をしたとしても、その復旧工事をする建設会社が動けるのか。もう一つ、倒壊した建物の権利を明らかにしないと公費解体ができない。解体が進まないと被災した道路の整備もできないという実態だが、総力戦でしており、応援もいただいているのでしばらくすれば目途が立つのではないかと。

（鰐氏） 観光の復興というところだと、まだ今も泊まれるところはない。復旧・片付け作業もそうだが、泊まる場所がないので長く作業をすることができない。復興についてアイデアはあるか。



コーディネーターの鰐氏



パネリストの埴氏、玉森氏

（玉森氏） 今すぐ何かできるということはないかもしれないが、珠洲の芸術祭のようなものや音楽祭もある。仏像などの文化財も豊富。能登の文化財は調査すらできていないと聞いたが、文化を大事にすることも当初から描いておかないと、農業の文化、漁業の文化や宗教を復旧しながら、早めに芸術祭のようなものを起爆剤にして能登の文化を発信することを5年後くらいに目標として動くといったことは大事だと思う。文化を復興の中で目を向けて、長期的な目途にすることは、皆さんが能登に帰るきっかけになると思う。

(鰐氏) 木谷さんは、酒蔵にある酵母を生かされないのかと話されていたが。

(木谷氏) 古い蔵に住み着いている酵母は酒をうまくしてくれるという話をよく聞くので、今回のようによその蔵で醸すというのは違うのかなと思う。能登には小さい酒蔵がたくさんある。お酒がつなげるものになるとすれば、それは一つの役割になるのかもしれない。今まで培った文化が埋もれているという話は、この先復興していく中で、どこまで決めて考えていくのか。そういうところは誰も余裕がないところかと思う。

(鰐氏) 避難の大変さや復興についても聞いてきた。それぞれの県で状況は違うが、JUDIとしての活動のアイデアはあるか。

(荘司氏) 発表の中で、10 分間で逃げられないという話があった。津波のときには逃げるだけでなく、ライフジャケットを着るとというのが実は正しいのではないか。何もしないよりは助かる確率は大きい。今回は寒い時期だったので、変な病気が蔓延することがなかったかもしれないが、梅雨時期や暑い時期に何かあったときの心配もある。先ほどから出ているトイレの話も生活の面では大切だと思うし、なんとかしなくてはならない問題だ。

(酒井氏) 復旧で何を優先してどのレベルにするのかというところがないまま進んでいるのが現状だと感じている。震災が起きてからか起きる前なのかはわからないが、地域として考えた方がいいのではないかと感じている。特にスピード感が求められるので、元のままに戻すのか、今後を見据えてどこまで改善した対策を打つべきなのかというところはジレンマだ。



パネリストの荘司氏、酒井氏

(埒氏) JUDI のメンバーは、みんないろんな形で能登の地震に関わっている。これからもっと関

わることになるだろうし、復旧だけでなく復興にも関わることになる。能登全体や珠洲、輪島と広い話をしているが、珠洲市でも飯田や宝立、正院などそれぞれの地域によって全然違う。そういったところにも我々は関わるができると思うし、関わるべきだと思う。復旧に3年はかかるし、復興は10年にもなると思う。情報共有や他の事例を参考にするなどして、ネットワークをJUDIで築き、地域に寄り添いながらのサポートをしていければよい。

(玉森氏) 能登は過疎で、限界集落もたくさんある。もう直さない道路があってもいいかもしれない。金沢と能登が一体となった復興をしなければいけない。JUDIとして復旧・復興のビジョンを語り合う全国的な話をするような場で、全国のコンサルの知恵を借りる提案をすることもできると思う。

■ 交流会

交流会です。水野一郎先生にご挨拶と乾杯のご発声をいただきました。また、旭日双光章のお祝いもお渡ししました。



交流会での水野先生のご挨拶と乾杯



集合写真

■ エクスカーション

日 時：2024 年 6 月 23 日（日）9:00～17:00

被災地視察：輪島市、穴水町、内灘町等

参加者：21 名

2 日目のエクスカーションは、雨模様となりましたが、バスで被災地を視察した。改めて被災状況を見ると、被災地は大変な状況でした。

JUDI としてどういうことができるか模索しながら地域に寄り添い、復旧・復興に関わっていくことが重要だと改めて感じました。



総持寺の被災状況を視察する様子



1 階部分が潰れて道路にはみ出すほど被災している家屋



いろは橋と道路の段差を砂利で仮復旧されている様子



輪島朝市周辺の被災状況



エクスカーション後の集合写真

【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック

幹 事 ● 小見直樹（エヌシーイー㈱）

事務局 ● 埴 正浩・高永智恵（㈱日本海コンサルタント）

TEL 076-243-8281 / FAX 076-243-8309

E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

JUDI 北陸ブロックホームページ
<http://www.judi-hokuriku.gr.jp/>

JUDI 北陸ブロック Facebook ページ
<http://www.facebook.com/judi.hokuriku>

●北陸ブロックの今後の活動予定

◇都市環境デザイン会議 2024in 富山

日 時：2024 年 10 月頃

会 場：富山県

◇都市環境デザイン会議 2025in 福井

日 時：2025 年春頃

会 場：福井県